

炉辺

堀辰雄

青空文庫

一

数年まへの春、木曾へ旅したときのこと。落ちつく先は、奈良井にしようか、藪原にしようか、とちよつと氣迷つたのち、——まづ、鳥居峠を越えて、藪原までいつてみた。いい旅籠でもあつたら、とおもひながら、お六櫛などをひさいでゐる老舗しにせなどのある、古い家並みの間をいかげん歩いて、殆どもうその宿を出はづれようとしたとき、一軒、それを見るなり矢張あつたな、とおもつたやうな、昔なつかしい家作りの、小さな旅籠があつた。

其の夜の泊りは其処にきめて、ともかくも、その宿のはづれまでいつてみた。すぐもうその先きは鳥居峠にさしかかるらしい、その宿はづれには、一本の大きな梨の木が立つてゐた。その花ざかりの木を前景にして、そこから見下ろされるまだ春浅い谷間を、私はいかにも此処まで来たかひのあつたやうな氣がしながら、しばらく眺めてゐた……。

夜、うすぐらい炉辺で、その宿の娘が串にさした川魚を焼いてゐた。その傍へいつて、私もその炉の火にあたらして貰つた。その魚の名を聞いてみたが、なんだか覚えにくい名

で、私はすぐ忘れた。もつとも、つまらない魚です、と娘も云ふには云つてゐたが……。そのかはり、秋、^{つぐみ}鶯のとれる時分に是非いらしつて下さい。その時分には、よく東京の方がお見えになります、といふ。

「ものなど書く人もたまには来ますか？」と私はきいてみた。

「はい、いろんなお方が……」娘はいたつて口数が少ない。そこで私はもう一度きく。

「どんな人？」娘はちよつと考へてゐたが、まづ一番さきに、「津村信夫さん……」といった。

私はおもはずにつこりとした。——実はさつきから、私も、こんな話を宿の人たちと交はしながら、こんな煤ぼけた炉のまへに胡坐をかいてゐるのは、自分なんぞではなくて、津村信夫だつたらさぞ似合ふだらうに、と思ひ描いてゐたところだつたのだ。……

二

去年の秋のはじめ、戸隠へゆく途中、私のところに立ちよつていつてくれた津村信夫と、わかれぎはに約束した。

「こんどはきつと往くからね。十日ごろまではあるの？」

「是非いらしつて下さい。戸隠もこれからはいいですよ」

さういつてわかれたときの津村君は、いまからおもふと、もう大ぶ容態が悪かつたらしく、ひどい痩せかたで、顔いろも妙に黒ずんでゐた。しかし、旅さきのせゐか、なかなか元気さうなので、大したことはないのだらうと思ひ込まされてゐた。……

九月のなかば、約束の日限を二三日過ぎてから、蕎麦の花ざかりのなかを、三人ほどして戸隠に上つていつた。運悪しくその前日、津村君は山を下りたあとだつた。

夕方、その坊のある中社の部落や、津村君が毎日散歩にいつてゐたといふ、高妻山を前にした、小ぢんまりした高原などを小一時間ほど歩いてみたが、どこへいつても、津村君のゐないのがひどく物淋しかつた。

夜、坊の主人に招かれて、七八人も坐れさうな炉辺で、お茶を馳走になつた。大きな薪があかあかと燃えてゐた。「津村さんはここが好きでしたね。殆ど一日ぢゆう此処にゐなすつた……」何かといふと、そんな津村君の話が自然に出る。——しばらく、私たちがほのかの話、——岩魚やトガクシシヨウマなどの話をしてゐると、なんとなく物足らなくなつて、誰れからともなく津村君の話をしだす。すると急に、また炉辺があかるく、楽しくな

つた。

「津村さんはほんたうに好い方だが、あんまり此処のことを書きなさるでな。こんどまた書きなすつたら、もううちにはお泊めしない、というてやりました。」坊のお内儀さんはふいと真顔になつて、そんなことも云つた。

坊の主人は、無口な人だつたが、そのときもただにこにこ笑ひながら黙つて聞いてゐた。「さうしたら、津村さんは、もう決して書かないつて約束するから、後生だから泊めて下さいつて云つてました……」

そんなことを云ひだされて、この炉辺で、津村君はどんなに困つて、それをしばらくあの独特な苦笑にまぎらせてゐたことだらう、とそのときの津村君の様子が一瞬、私たちの前にありありと浮んだ。……

三

木曾蘆原の宿の小さな炉ばたにおける君の姿と、戸隠の坊の大きな炉ばたにおける君の姿と、——いま津村信夫のことをおもつてゐると、そんな二つの炉ばたにおける姿がいかに

にも目に見えるやうに蘇ってくる。が気がついてみると、そのどちらも私が、この目でぢかに見た姿ではない。そのをりをりふいと私の心にだけ浮んで、すぐ消え去つた君の姿に過ぎないが、それだけに純粹な Bild として、いまだに私の裡にこんな鮮やかに残つてゐるのかもしれない。……

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆」火」作品社

1988（昭和63）年11月25日第1刷発行

底本の親本：「堀辰雄全集 第四巻」筑摩書房

1978（昭和53）年1月

入力：川山隆

校正：染川隆俊

2012年9月30日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

炉辺

堀辰雄

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>